

1. 企画趣旨

授業に関する学生・教員交流会（以下、交流会）は、授業アンケートでは拾いきれない学生の直接的な声を聞くことを目的として、年に1回開催されている。2013年度～2017年度は、授業アンケートに関する話題が中心であったが、2018年度からは、授業全般について話題が広がった。さらに、2019年度以降は、学びの当事者である学生が主体となる学習環境の改善に話題が及び、2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応したZoom授業について、学生・教員が忌憚のない意見を交わした。

表1 授業に関する学生・教員交流会のテーマ（2013年度～2020年度）

開催年度	テーマ
2013年度	授業アンケートについて感じたことや改善点について／学習環境全般について
2014年度	授業アンケートについて感じたことや改善点について／学習環境全般について
2015年度	授業アンケートについて感じたことや改善点について／学習環境全般について
2016年度	授業アンケートをもとにした授業改善について／授業アンケートに関する教員コメントの内容について／その他
2017年度	時間割の要望について／授業の進行方法について／授業改善の要望について／授業・講義に関することでその他
2018年度	授業レベルについて／到達目標について／授業外学修について／授業・講義に関することでその他
2019年度	トークテーマ1 学生FDの企画内容／トークテーマ2 学生FDの体制づくり トークテーマ3 学生によるカリキュラム開発
2020年度	トークテーマ1 Zoom授業をふり返る／トークテーマ2 おすすめ授業を共有する トークテーマ3 理想の授業を創ろう

さて、2021年度もZoom授業が継続したことより、トークテーマの一つにZoom授業に関するものを設けた。この2年間で、学生・教員ともにオンライン授業の実施または受講にそれなりに適応したと思われる。導入当初は気づかなかったZoom授業のメリット・デメリットにはどのようなものがあるのだろうか。

2. 実施概要

■学生募集

期間：2022年2月3日～2月17日

募集方法：メール告知とFD委員による声かけ（各学科2,3人選出）

申し込み方法：Microsoft Forms

2021年度も、2020年度に引き続き、自宅からの参加できるZoom開催とした。学生の参加動機は以下のようなものが挙がった。

交流の場を期待して

- ・他学科の学生が今までの学校生活をどのように感じているのかを知るよい機会になるから
- ・交流を制限された大学生活で、学科や学年を超えて交流を持ちたかったから

改善を期待して

- ・今後の学校生活を良くし、高校生に「この大学に入りたい」と思ってもらえるようにしたいから
- ・大学の授業に関して改善して欲しいことがあるから

将来に役立てたい

- ・自分の気持ちを伝えることや人の意見を聞く練習をしたかったから
- ・学生のアイデアで学習環境をよくしようというテーマが、履修している教職の考えにも繋がる部分があるのではないかと思ったから

その他

- ・教員の誘いがあったから
- ・友人の誘いがあったから
- ・学生側から授業改善に関わる活動に関わってみたいから
- ・昨年度参加して、新たな気づきが得られて楽しかったから

以上のように、学生の動機は多岐に渡る。交流会のテーマに関心を持つ学生、普段関わらない人との交流を期待する学生、新しい何かを創造することを企図する学生など様々であった。いずれにしても、皆、人と関わることに意欲的な学生であり、交流会の盛会が期待された。

■当日の記録

【日 時】2022年2月24日（木）10：00～12：00

【方 法】Zoom開催

【参加者】27人（学生17人 教職員10人）

(1) プログラム

1	開会あいさつ、交流会の説明	10分
2	グループミーティング（自己紹介を含む）	60分
10分休憩		
3	グループ発表（各5分×4グループ）	20分
4	アンケート記入	10分
5	まとめ	10分

(2) 交流会の目的

参加者に示した交流会の目的は次の通りである。目的の一つは、誰もが経験をしたオンライン授業について自由に意見を交わすことにある。そして、自由に意見を交わしながら、授業アンケートでは伝えられない想いを共有することをねらいとした。また、異なる学科の学生同士でチームを作ることで、自分の学科以外のことを知る機会になればよいと考えた。

さらに、トークテーマを深めていくなかで、授業・大学生活の困りごとや悩みを共有し、その分かち合いを契機に、ピア・サポート制度を始動させることを期待した。

(3) グループミーティングの編成

グループの編成は以下の通りである。

- A 児童教育学科&心理学科
- B 人間福祉学科&文芸文化学科
- C 食品開発学科&幼児教育学科
- D 食物栄養学科&社会情報デザイン学科

(4) グループミーティングの進め方・グループ発表の方法

当日は、(3)で示したように4つのグループに分かれミーティングを行った。1グループにつき、学生は

3名～6名、教員は1～2名である。

ミーティングはブレイクアウトセッションを利用した。参加者には、事前に配布したパワーポイントのシートを用いて、記録を取るように指示した。交流会のテーマと話し合いにあたって学生に指示した内容は以下の通りである。


<p style="text-align: center;">授業に関する 学生・教員交流会</p>  <p style="text-align: center;">2022. 2. 24</p>	<p style="text-align: center;">交流会のテーマ</p> <ol style="list-style-type: none">① Zoom授業をふり返ろう —Zoom授業2年目を経験して—② 授業・学生生活の困りごとについて共有しよう③ ピア・サポート制度について考えてみよう
<p style="text-align: center;">4つのつ</p> <ul style="list-style-type: none">• つながって (繋がる) 他学科・先輩・後輩・教員・職員…• つたえて (伝える) 経験・いいところ・改善点…• つみあげて (積み上げる) 希望・想い・アイデア…• つくり上げよう (創り上げる) 新しい学びの形	<p style="text-align: center;">パワーポイントで情報をまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none">• これから「ファイル」を送ります。• グループのなかで、誰かが書記となり、グループの意見を整理してください。• 1テーマにつき、1ページを設けていますが、複数ページにわたってもよいです。• 文字フォントにも工夫しながら、項目を立てて書いてください。 例 【問題点】【課題点】【改善策】 →、…、①・②などの記号使用

図1 話し合いの指示

(5) グループミーティングの結果

以下より、各グループのミーティング結果を示す。

トークテーマ1 Zoom授業を振り返ろう

【Zoom授業のメリット】

- 授業資料がみやすい
- チャットで質問ができる
- ブレイクアウトセッションで普段関わらない人と話すことができる
- 自分のペースで進められる
- 慣れた環境（自宅）で授業を受けることができる
- デジタルへの対応力が向上する
- 通わなくてよいので時間短縮ができる（睡眠時間の確保ができる）
- 通学費がかからない

【Zoom授業のデメリット】

- 通信状況が悪いと、話し合い（ブレイクアウトセッション）に参加しにくい
- 指名された時に、周りの友達に相談ができない
- 画面ONには抵抗がある

- ・対面と遠隔とで教員の対応が異なる
- ・Zoom操作のスキルに教員間で差がある
- ・対面に比べて物足りなさを感じる
- ・教員と学生のコミュニケーションが取りにくい

トークテーマ1については、いずれのグループも、メリット・デメリットの両側面を的確に捉えることができていた。Zoom授業も2年目に入り、教員・学生共にZoom操作のスキルは向上していることがうかがえる。概括すると、Zoom授業のメリットには、大学通わずに授業を受けられたり、授業資料が見やすかったりと、その効率性を指摘する意見が多かった。デメリットとしては、対面授業よりも、直接的なコミュニケーションの機会が減ったことが挙げられた。

トークテーマ2 困りごとを共有する

【授業について】

- ・（自宅でのZoom受講の場合）生活・環境音が心配
- ・（自宅でのZoom受講の場合）ネット回線が不安定
- ・（自宅でのZoom受講の場合）授業資料の印刷代がかかる
- ・（自宅でのZoom受講の場合）集中力が切れる
- ・（自宅でのZoom受講の場合）目が疲れる
- ・授業に関する連絡が遅い
- ・授業資料をUNIPAに格納してほしい
- ・学期末など課題提出期間が重なる
- ・UNIPAが不調になると学習に支障が生じる
- ・日頃、学生間でかかわりがないため、いざ対面となるとグループワークがやりにくい

【学生生活について】

- ・（教員が）学生のことを覚えていない（顔と氏名が一致しない）
- ・教員との連絡手段がメールになり、容易に質問できない
- ・教員との関わりが希薄であるため、相談できる先生が少ない
- ・限られた人としか関わりがない
- ・先輩との交流が少ない（学年を超えた交流がない）
- ・学内のインターネット環境が悪い
- ・ハイフレックス型に慣れているため、全面登校には不安がある

教員に対する要望としては、授業に関する連絡を早めにしてほしいというものが挙がった。また、実習を重視する学科においては、十分な実習が受けられなかったことが残念な点として指摘された。もちろん、教員側も努力を重ね、オンライン学習であっても、教育の質を担保することに注力してきたが、学生側からすれば、物足りない部分もあったのだろう。さらに、2021年度より導入した総合学習システム「UNIVERSAL PASSPORT」に対する指定もみられた。その他、学生・教員問わず、人間関係が希薄であることを困りごととして挙げているグループが多かった。そうした不安が全面登校（2022年度～）への懸念につながっているのだろう。

グループによっては、その困りごとの解決策を提案しているところもあった。例えば、人間関係を広げるため、先輩と関わる機会を設けたり、対面でのグループ活動を活性化させるためにルール作りを行ったりと、学生たちの努力で改善できることも指摘されていた。UNIVERSAL PASSPORTの使用についても、教員・学生共にその使い方を学び合う場があれば、導入初期にみられたトラブルは解消できると考えられる。

今後、そのような機会を設けることができたらよい。

トークテーマ3 ピア・サポート制度について

「ピア・サポート制度」とは、学びの当事者である学生が、学習環境の改善に取り組む制度を指す。本学において「ピア・サポート制度」はなじみがないため、学生たちは、他大学の取り組みや先行事例を検索しながら、話題を展開していった。

以下が、先行事例を参照しながら、学生が考えた活動である。

- ・学習環境について気楽に意見を交わす会を企画する
- ・教員と学生が交流する機会を設ける
- ・上級生と下級生が交流できる場を作る
- ・留学生に対する支援体制を整える
- ・学生が選ぶベストティーチング賞を設ける
- ・学内に“居心地のよい場所”を創設する

この2年間、交流が制限されたからだろうか、教職員との交流、異学年との交流を望む声が多く聞かれた。また、年に1回の形式的な会ではなく、よりフランクな形での意見交流が望まれていることがわかった。

3. 事後アンケート

事後アンケートを学生、教員に向けて実施した。提出はMicrosoft Formsである。

(1) 学生

① 交流会の参加について

参加してよかった	17
普通（特になし）	0
参加したくなかった	0

② 交流会は、今後も実施したほうがよいか

実施したほうがよい	17
どちらでもない	0
実施しなくてもよい	0

③ ピア・サポートに関心があるか

とても関心がある。自分で企画に携わりたい。	6
まあまあ関心がある。企画があったら参加したい。	11

④ 自分たちのグループの活動について

【良かった点】

- ・役割を決めて話し合いを進めたのでスムーズだった
- ・画面 ON だからこそ、初対面でも盛り上がる事ができた
- ・互いの意見を認め合い、共感し合うことができた
- ・異なる学科の良かった点や課題を聞くことができて新鮮だった
- ・先輩方の意見を聞くことができ、よい経験となった
- ・少しの時間だったが、先生方の本音を聞くことができた
- ・昨年度も参加したこともあり、ファシリテーターの役割を担った
- ・ピア・サポート制度に関して、意見を交わすことで多くの意見が出た
- ・改善点を提案することができた

- ・学生主体の活動が本学でも始まりそうなことに期待がもてた

【改善が必要な点】

- ・話し合いが充実していたからこそ、もっと時間が欲しかった
- ・それぞれの意見を深める時間が足りなかった
- ・教職員の方々の率直な思いをもっと聞いてみたかった

いずれのグループも、大学生活に対して日頃抱いていた思いを述べ合うことができていたようだった。初対面場面であっても、意欲的な学生たちが参加していたため、話し合いも充実していたことがうかがえる。改善点やピア・サポート制度についてのコメントもあり、次へのステップを期待させる話し合いとなった。

その一方で、一つひとつの意見を掘り下げる時間だったり、教職員の本音を聞く時間だったり短かったことが課題として残った。

⑤ 全体について

【良かった点】

- ・学生的心声を直接伝えることができた
- ・和やかな雰囲気話し合うことができた
- ・先生方がより良い環境作りに意欲的であることがわかった
- ・他グループの意見に共感することができた
- ・他学科の意見を聞き、新たに気づかされることがあった
- ・前は「Zoom や ICT に不慣れ」という意見があったが、今回は「ICT に強くなれた」という前向きな意見があり、成長を感じた

【改善が必要な点】

- ・意外と時間が短かった
- ・もう少し、互いのことを知る時間（アイスブレイク）があってもよかった
- ・各グループに教員が2名はいる方がよい
- ・学生が不満を述べるが多くなってしまったので、教員側の意見も聞くことができたならよかった
- ・教員の講評をもう少し聞けたらよかった
- ・困りごとの共有に加えて、解決策やポジティブな意見も出せたらよかった

【今後に向けて】

- ・学科を超えて話し合った意見や想いを生かし、学生全員が過ごしやすい環境を作っていきたいと感じた
- ・学生と教員とのつながりを大切に、みんなで十文字をよくしていきたいと思った
- ・定期的に学生と教員が関われる機会をもっていきたい

話し合いが充実していたからこそ、話し合いの時間が足りなかったという意見が多かった。また、教員側の講評を聞いたかった、という意見もみられた。学生同士の交流もままならなかったこの2年。学生と教員と本音で関わる機会にはほぼなかったといえる。しかし、今回、話し合いに参加した学生の姿から、学生側も教員との交流、意見の交わり合いを求めていることがわかった。そうした意欲的な学生の声を救い上げ、教育活動全体に活かしていくことが、今後大切になってくるだろう。

(2) 教員

① 交流会の参加について

有意義だった	6
普通（特になし）	2
よくなかった	0

短い時間であっても、学生の意見が聞けたことを評価する感想が多くみられた。また、学生同士が意見の交流を楽しんでいたことも印象的な姿として挙げられた。しかし、学びに意欲的な学生であっても、2022年度から始まる「全面登校」には一抹の不安を抱えていることがわかり、大学側・教員側で何らかの対応をとることが必要だとわかった。

その他、学生の意見と同様、一つひとつのトークテーマを深めていくには時間が足りなかった点、教員側が思いを伝える時間が少なかった点が課題として挙げられた。

② 今期の授業に関して、学生の直接的な声を聞くことができたか

できた	6
ある程度できた	2
あまりできなかつた	0
できなかつた	0

率直な意見を聞くことができた分、教員としては「それはなかなか難しい」という思いに至ることもあった。例えば、ZoomやUNIVERSAL PASSPORTについての問題は、教員個人で対応するのは厳しい部分もある。

また、時間の制約があり、一人ひとりの学生の声を受け止め、それについて話題を深めることが難しかった。意見を言い合って終わりではなく、何らかの価値を生み出すことを目的に、話し合いを進められたらよかったといえる。

③ 交流会の企画継続について

実施したほうがよい	7
どちらでもよい	1
実施しなくてよい	0

授業アンケートは個人の自省に留まるが、意見交流により、新たな気づきが生まれることが期待でき、前向きな意見も出やすいのでは、という意見があった。しかし、こうした会に参加する学生は概ね優秀で意識が高い。そのため、彼女たちの意見が学生全体の総意ではないこと、また、リーダーシップをとれる学生だからこその悩みがあることを理解しておく必要があるという示唆的なコメントがあった。

この交流会がきっかけとなり、学生の主体的な活動が展開していくことを期待したい。

4. まとめ

前向きな学生の参加に恵まれ、交流会は盛況であった。今後は、交流会を、1年に1度の単発の会として留めるのではなく、発展的かつ継続的に実施していくことが大切となる。例えば、ピア・サポート制度の創設を目指し、まずは、学生同士の不安を解消する「おしゃべり会」から始めてみるのはどうだろうか。定期的集まることで、学生相互の距離を縮め、新たな価値を生み出す環境を整えていきたい。